



弁護士

渋谷 健爾

初代英吉利法律学校校長
1854 (安政元) - 1895 (明治28)
奈良・奈良

よく学びよく遊んだ
初代幹事

幼名は次太郎。のちに順二から健爾へと改名。幼い時から学問を好み、麻島博校弘文館で原忠厚(海堂)に師事した。英蘭に堪能で学問を好んだ渋谷は、時に、人のために余分の財財をする癖があったらしく、多額の借金を抱えていたともいう。面倒見の良かった岡山兼吉との縁で英吉利法律学校の創設に参画したといわれている。



弁護士

堀部 醇

1859 (安政6) - 1936 (昭和11)
岐阜・佐佐

志を英吉利法律学校に
託して

東京大学在学中に以呂久を師に改名。号は楓坊。英吉利法律学校設立直後、長崎商業学校長として赴任することとなり、後事を他の創立者たちに託して長崎へと向かった。その後、醇部は各地で検事や判事を務め名古屋で弁護士となって司法一筋の道を歩んだ。地位や名譽を求めず、ひたすら法律の実地応用を体現した人生であった。



弁護士

山田 吾之助

1859 (安政6) - 1913 (大正2)
大阪

詩文に秀でた
熱血漢

大阪船場の商家生まれ。養父の号は淀川の南に生まれたことによる。6歳にして漢学を学んだ。弁護士のほか政治家また官僚として多彩な活躍をした。日清戦争後のポーツマス条約に反対して起こった日比谷焼き打ち事件で熱血漢よりを免罪して検挙されたが、予審免訴となった。詩文集に『行吟集』、『養南詩文集』などがある。



弁護士

岡山 兼吉

1854 (安政元) - 1894 (明治27)
静岡・静岡

創案を集めた
法律顧問の祖

幼名は重吉。号は相望。その事務所には、新松依願人より食客や書生の出入りが多く、さまざまな相談事が持ち込まれたという。約12年間で取り扱った訴訟件数は2300余。静岡新裁判所によって贈賞な弁護が岡山への信望を集めた。1883年倉庫会社法律顧問の就任が日本における「法律顧問」の最初であるといわれている。



弁護士

元田 肇

1856 (安政5) - 1938 (昭和13)
大分・津家

代言人から政界へ
創立者初の衆議院議長

播磨家に生まれ元田直に才能を見出されてその養子となり肇と改名。1890年から1930年まで政友会の代議士として活躍した。その後政友会として初めて枢密顧問官となり、また宮中杖(繡杖)を許された。大正から昭和にかけて宮中で杖を許された者は極めて少なく、至高の榮譽とされた。出身地に因んで国東と号した。



弁護士

高橋 一勝

1853 (嘉永6) - 1886 (明治19)
埼玉・川越

塾生の
法学士代言人

幼くして母を、また満15歳にして川越藩士であった父を喪う。家財を処分して学費をつくり苦学しながら勉学に励み、1879年、山下雄太郎、横野計の2人とともに法学士代言人の第1号となった。代言人として誰もが一目を置く存在となり、これからの矢先、東京を襲ったコレラにかかり、満33歳の若さで亡くなった。



官僚

奥田 義人

第2代・第4代中央大学長
1860 (万暦元年) - 1917 (大正6)
鳥取

いさぎよき
創立者最後の学長

東京大学在学中、寄宿舍が学位授与式をすっぱかして逃走に出かけ、帰校後、他の学生と大学の器物や器物を破壊する事件が起こった。奥田はこの騒動に直接関係なかったが、最上級生として責任を取りあてて罪を認めた。処分者公表の際、退学者の筆頭に「鳥取県士族奥田義人」とあったことから、その名は一躍天下に広まった。

岩国の私塾であったが、奥田義人より井上馨の幕には高級な取り替えて、吹く風と霞はなかった。名から冷灰と号した。

1877年
東大予備門 入学 (23歳)

1885年
東大法学部 卒業。代言人 (31歳)

創立者たちの学び舎

中央大学の創立者たちの学歴を見ると「東大法学部卒業」が目につく。この東大(東京大学)とは、当時、唯一の大学で学位としての学士号を与える最高学府だった。このころ我が国は法制度の近代化を図るためフランス法やイギリス法を導入し法学教育を推進していた。その中において東京大学法学部は主にイギリス法(英米法)を教授した。法学修業のため開成学校あるいは東京大学予備門から法学部へと進学した創立者たちはそこで自ずとイギリス法に親しみ、その修得に励んだのである。

1877年
東大予備門 入学 (18歳)

1883年
東大法学部 卒業。
東京専門学校法律学科講師 (24歳)

1884年
代言人 (25歳)

1876年
大阪美術学校 卒業。
東京美術学校 入学 (17歳)

1877年
東大予備門 入学 (18歳)

1882年
東大法学部 卒業。代言人。
東京専門学校法律学科講師 (23歳)

1885年
司法修習官 (26歳)

1876年
新嘉坡中華学校 卒業。
東京美術学校 入学 (22歳)

1877年
東大予備門 入学 (23歳)

1882年
東大法学部 卒業。代言人。
東京専門学校法律学科講師 (28歳)

1883年
青柳社 開校。
倉庫会社法律顧問 (29歳)

1872年
明治学校 入学 (14歳)

1874年
東京美術学校 入学 (16歳)

1880年
東大法学部 卒業。代言人 (22歳)

1874年
明治学校 入学 (21歳)

1877年
東大法学部 入学 (24歳)

1879年
東大法学部 卒業。代言人。
東京美術学校 開校 (26歳)

1883年
東大法学部講師。明治学校法律研究部 開設。
青柳社 開校 (30歳)

1884年
明治学校法律学校開設。
東京(代言人)組合副会長 (31歳)

1877年
東大予備門 入学 (17歳)

1884年
東大法学部 卒業。
大塚實業株式有限会社専任取締役 (24歳)